

一般社団法人 日本薬学教育学会 第5回理事会 議事録

開催日時：令和4年4月28日（木）10：00～12：00

開催場所：WEB 会議システム（ZOOM）による開催

<https://us02web.zoom.us/j/86270819162?pwd=Y3JjVEEd2ZW40bXJEbk8wYXhwY0RYQT09>

理事：乾 賢一、中村 明弘、有田 悦子、石川 さと子、入江 徹美、奥田 真弘、
亀井 美和子、木内 祐二、小佐野 博史、高橋 一栄、武田 香陽子、
永田 泰造、長谷川 洋一、安原 智久

<欠席>：鈴木 匡、西口 工司、

監事：林 正弘、吉富 博則

事務局：斎藤 渉、村上 聡

議事：

定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長と林監事、吉富監事が署名又は記名押印することが確認された。

議事：

1. 前回（2021年度第4回）理事会議事録案について（承認事項）

乾理事長より議事録（案）に基づいて前回理事会の議事内容が報告され、議事録として承認された。

2. 社員総会、理事会議事録のホームページへの公開について（報告事項）

一般社団法人化以降の社員総会と理事会の議事録公開に向けて、前回理事会の終了後、事務局から理事に内容確認を依頼した。理事から問題を指摘する意見がなかったため、5月公開に向けて事務局で作業を進めることが報告された。

3. 役員選挙の実施について（報告事項）

事務局より、理事に13名、監事に2名の立候補があり、役員・理事長選任細則に基づいて選挙を以下の方法で実施することが選挙管理委員会で承認されたとの報告があった。

理事の立候補者は選任細則で規定された人数（12名）より多いので「不完全連記方式の6名連記（1～6名の連記は有効票、7名以上の連記は無効票とする）の投票」で12名の理事候補者を選ぶ。

監事の立候補者は選任細則で規定された人数と同じ2名であるので、「信任投票（信任する候補者にチェックする投票）」で2名の監事候補者を選ぶ。

WEB形式の投票フォームを事務局で準備して5月11日から投票を実施する。

なお、社員総会における理事・監事の選任については、一括ではなく1名ずつ選任の可否を審議する方式で行う必要があることが事務局より報告された。また、現在の「理事立候補届」と「監事立候補届」は、次回の役員選挙よりそれぞれ「理事候補者立候補届」、「監事候補者立候補届」とすることとした。

4. 2021年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）審査結果報告（承認事項）

安原理事より、2021年度学会賞の審査について応募者と審査員の利益相反を十分考慮して行ったことが紹介され、審査結果が学会賞選考委員会議事録に基づいて報告された。教育研究奨励賞は2名程度としているが、今年度は5名の応募があり、応募者の質も高かったことから3名が候補者として理事会に推薦され、協議の結果、承認された。教育実践奨励賞の応募者は1名で、選考委員会で審議の結果、この1名が候補者として理事会に推薦され、協議の結果、承認された。

受賞者と推薦者にはまず事務局から書面で通知し、その後、安原理事から第7回大会での受賞者講演を依頼することが確認された。

乾理事長からは、病院・薬局等の医療現場からの応募を増やすための取組を進めていくよう依頼がなされた。

5. 「薬系学会協議会（仮称）設立に関する懇談会」への参加について（承認事項）

乾理事長より、本年3月31日に「日本薬系学会協議会（仮称）設立に向けた準備委員会について－懇談会の開催について－」説明会が開催され、理事に録画の視聴を依頼した経緯が説明された。協議の後、「薬系学会協議会（仮称）設立に関する懇談会」に本学会が参加することについて承認された。

6. 第7回大会準備状況報告（報告事項）

有田理事より、第7回大会の一般演題および参加登録状況、今後の予定等について報告された。一般演題については、オンラインではあるが座長を置いて口頭発表を行う形式を予定している。

7. 第8回大会準備状況報告（報告事項）

入江理事より、第8回大会の準備状況が資料に基づいて以下の開催概要が紹介された。

テーマ：薬学教育、次のフェーズへ ～グローバルコラボレーションの進展～

会期：2023年8月19日（土）、20日（日）

会場：熊本大学薬学部大江キャンパス（熊本市中央区大江本町5-1）

大会長：森岡弘志（熊本大学大学院薬学教育部長・薬学部長）

実行委員長：入江徹美

大会事務局：熊本大学大学院生命科学部医薬品包装学寄附講座 入江徹美、岩崎竜之

8. 教育コンピテンシーの全国測定ワークショップの開催について（報告事項）

安原理事より、コロナ禍で延期されてきた標記ワークショップを9月18日（日）にオンラインでメタバースを活用して開催する予定であることが紹介された。本事業は兵庫医科大学の木下氏が獲得した科研費によって実施するので、本学会からの経費支出は不要である旨が報告された。今後、学会ホームページおよび事務局からのメール配信等で会員に通知する予定である。

9. 委員会報告（報告事項）

・編集委員会報告

入江理事より資料に基づいて報告がなされた。来年1月に発行する第6巻冊子体に掲載予定の論文は9件である。全体的な状況としては、原著論文の投稿、内容としては質的研究が増えており、審査においては原著論文と実践報告の採択率が低くなっている。現在、国際化に向けた特集の準備をすすめている。

・薬学実務実習委員会報告

小佐野理事より、3月26日（土）に開催された「薬学実務実習のレベルアップ目指すワークショップ」の概要が資料に基づいて報告された。実務実習がカリキュラムの根幹をなすことから、本委員会の活動をカリキュラム全体に発展させることも検討していく予定である。

・倫理教育委員会報告

有田理事より、資料に基づいて第7回大会で企画しているワークショップ「倫理的感受性を育む方法を考えよう～実務実習における体験談の引き出し方」の概要が紹介された。

・国際化委員会報告

武田理事より資料に基づいて本年3月17日に開催された委員会の内容が報告された。学会誌「薬学教育」への原稿執筆を桐野氏に依頼し、2023年の第8回大会に向けて国際化に関するシンポジウムの企画を検討していることが紹介された。

・中長期ビジョンワーキンググループ報告

入江理事より資料に基づいてワーキンググループでの検討内容が報告された。第7回大会の終了後、10月に以下のようなワークショップを企画していることが紹介された。2022年度の事業計画とし、予算計上を行う。

テーマ：「皆で未来の薬学教育を考えよう！」（仮題）

主催：日本薬学教育学会

参加者：日本薬学教育学会会員 先着50名（1グループ10名×5グループ）

会員全員にアナウンスして、参加者を募る。できれば、学会賞受賞者などは積極的に参加いただきたい。

開催形式：対面

会場：東京でアクセスがよくて安価な貸会議室

参加費：2,000円程度

10. 担当理事報告（報告事項）

・連携担当：シンポジウムの開催について

高橋理事より、第32回医療薬学会年会のシンポジウムに本学会との共催で応募し採択

されたことが報告された。

木内理事からは、医療系教育学会の学術集会等において相互の後援・共催を推進していることが紹介された。今後は、本学会内に多職種連携に関する委員会を設置、教育関連学会間で連絡会の創設、そしてイベント共催・プロダクト作成等を共同で実施していく関係を構築することを目指している。

石川理事からは8月に群馬で開催される第54回日本医学教育学会大会のシンポジウム「多職種連携教育の潮流とそのインパクト—今後の展望と可能性—」において、本学会からのシンポジストとして「薬学部における多職種連携教育の現状について」講演することが報告された。

・広報担当報告

石川理事より、学会ホームページにおいて学会賞のページを作成すること、第7回大会に関する会員への広報は有田理事から直接発信することが報告された。

11. 理事長報告（報告事項） 乾先生

・機関会員入会勧誘の活動について

乾理事長より、機関会員に未入会の大学には2月に学会誌「薬学教育」の冊子体を送付しており、全大学の機関会員入会を目指して取り組んでいることが報告された。

・Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) の活動について

本年7月29日にWeb開催されるThe 10th AASP Conference 2022の開催概要が資料に基づいて紹介された。現在AASPのpresidentは乾理事長で、今回のconferenceの担当はマレーシアとのこと。

12. 会員登録状況報告（報告事項）

事務局から資料に基づいて3月31日時点の会員登録状況（計812名）と会費納入率（88.9%）が報告された。4月第3週に2022年度の年会費の請求書を会員に送付した。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2022年7月26日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘

監 事 吉富博則